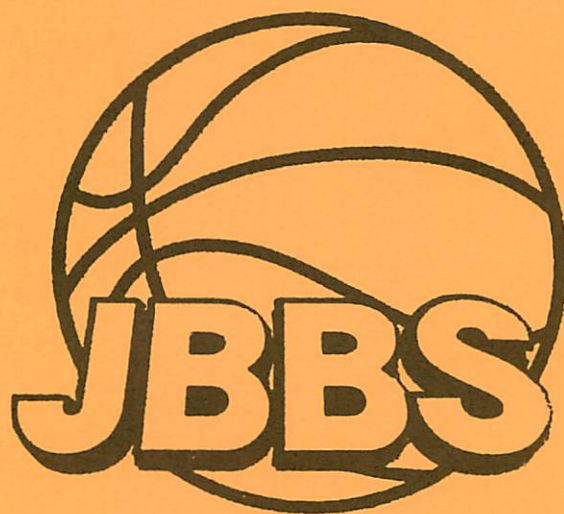


バスケットボールプラザ

Basketball Plaza

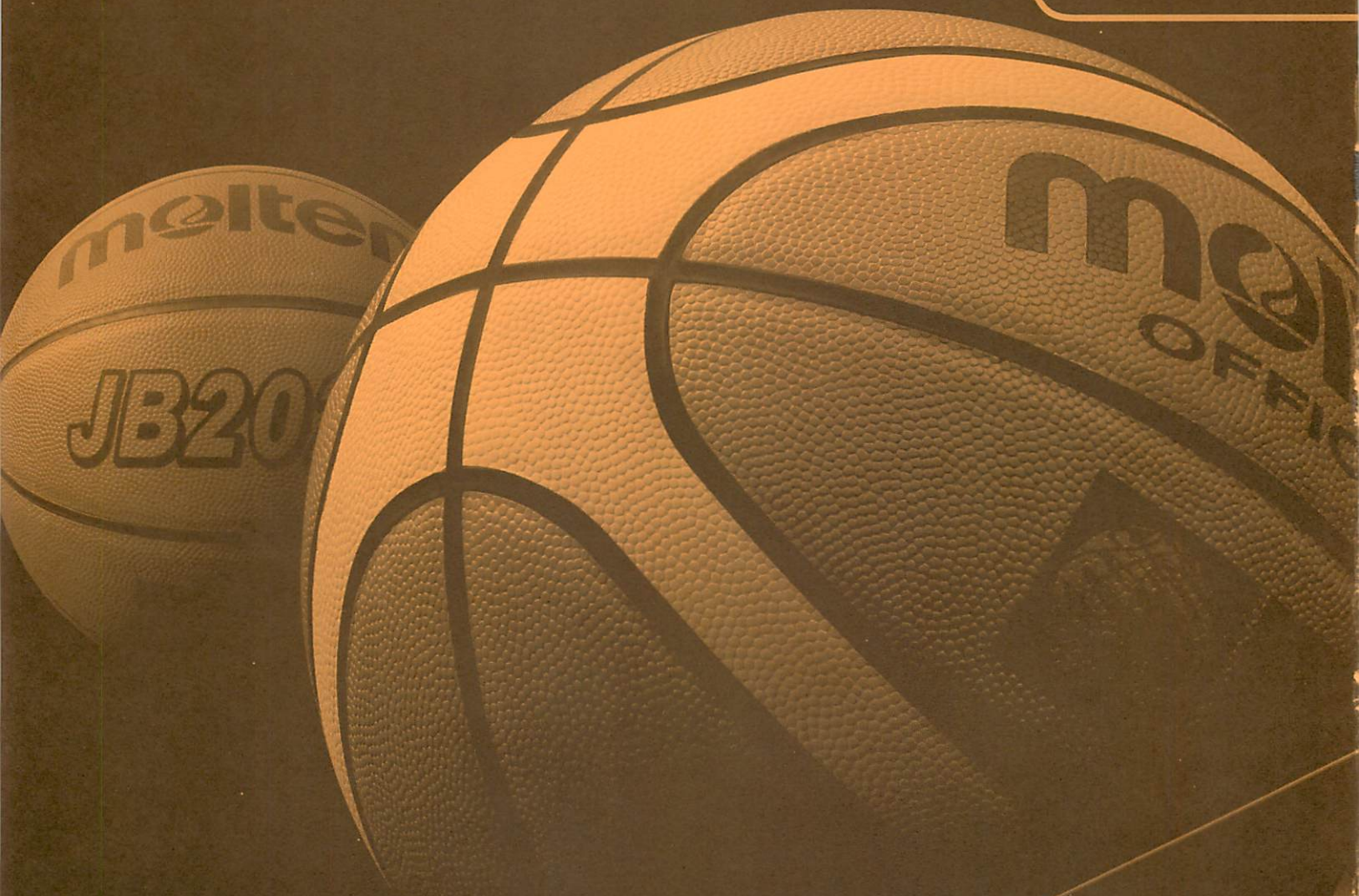
No:47



2010年11月

NPO法人 日本バスケットボール振興会

molten[®]
For the real game



For the real game

「プレーヤーの技術や意志が100%発揮される時、スポーツは本物になる」

私たちモルテン・ブランドは、この信念をもとに

世界に類のないボールと

スポーツエキップメント・メーカーとして

つねに完璧な製品づくりを目指しています。

www.molten.co.jp

株式会社 **モルテン** 東京本社 〒130-0003 東京都墨田区横川5丁目5-7

本大会唯一の公式試合球

BGL7
GL7 国際公認球 | 検定球
貼り・天然皮革、7号球



目 次

- 第16回FIBA女子世界選手権大会・・・・・・・・・・・・・・ 3
日本代表健闘して10位
- チェコ女子世界選手権応援旅行記・・・・・・・・・・・・・・中瀬達雄・・・ 9
- 秋の講演会・交流会を開催・・・・・・・・・・・・・・ 14
女子日本代表中川ヘッドコーチ講演
- 中学生のバスケットボール問題・・・・・・・・・・・・・・ 22
世田谷区中体連有志の先生方との懇談会から
- オリンピックベルリン大会における
バスケットボール種目に関する史的考察・・・・・・・・・・及川佑介・・・ 27
- 日本協会創立80周年記念式典・祝賀会・・・・・・・・・・・・ 31
盛大に開催される
- 日本実業団連盟創立50周年記念式典開催・・・・・・・・・・・・ 38
- 関東大学女子連盟創立60周年・・・・・・・・・・・・・・ 40
東京中日スポーツ紙全面記事2頁掲載
- 特別寄稿
関東女子学連草創のころ・・・・・・・・・・・・・・伊藤摩耶子・・・ 41
- スーパーシニア交歓大会に参加して・・・・・・・・・・・・・・渡辺 誠・・・ 44
- 第24回FIBA女子アジア選手権・・・・・・・・・・・・・・ 45
長崎／大村大会 組織委員会発足
- 第62回全日本大学選手権大会組合せ・・・・・・・・・・・・・・ 47
- 訃報・追悼文・・・・・・・・・・・・・・ 50
- 事務局だより・・・・・・・・・・・・・・ 52
- プラザ こぼればなし・・・・・・・・・・・・・・ 53

第16回FIBA女子世界選手権大会

日本代表健闘して10位

[編集部]

9月23日(木)からチェコで開催された首記大会で日本代表は8ゲームを戦い、2勝6敗で10位という成績だった。前回大会の13位から比べれば世界を相手に一步前進であり、敗れた6ゲームのうち5ゲームが僅差のクロスゲームだったことをみれば、まさに大健闘と言っても過言ではないであろう。ちなみにアジアからは日本以外に中国と韓国が出場したが、中国は13位に終わり韓国は8位という結果であった。

女子日本代表は大会直前になって代表選手の一人である川村選手が、日本への帰化問題によってFIBAから出場を認められないという通知を受け、11名のメンバーで戦わざるを得ないアクシデントにも見舞われた。すでに新聞などでご承知のように、中川ヘッドコーチはキャプテンの大神選手をポイントガードからシューターへと転向させ、この作戦が後々功を奏した結果になった。

[女子世界選手権日本代表メンバー]

主なスタッフ

役 職	氏 名	所 属
ヘッドコーチ	中川 文一	日本協会
アシスタントコーチ	古海 五月	日本協会
アドバイザーコーチ	星澤 純一	神奈川県立金沢総合高校
アドバイザーコーチ	梅寄 英毅	山梨学院大学

選手

No.	選手名	P	身長 c m	体重 kg	年齢 歳	所 属
4	名木 洋子	S F	175	67	28	富士通レッドウェーブ
5	高田 真希	P F	183	74	21	デンソーアイリス
7	三谷 藍	P F	181	68	32	富士通レッドウェーブ
8	鈴木 あゆみ	S F	180	69	24	富士通レッドウェーブ
9	諏訪 裕美	C	183	84	24	JOMOサンフラワーズ
10	藤吉 佐緒里	S G	178	67	23	シャンソン化粧品Vマジック
11	櫻田 佳恵	S G	170	63	26	トヨタ自動車アンテロープス
12	吉田 亜沙美	P G	165	64	22	JOMOサンフラワーズ
13	大神 雄子	P G	170	63	27	JOMOサンフラワーズ
14	高橋 礼華	S F	177	65	22	日本航空JALラビッツ
15	石川 幸子	S F	178	68	32	日本協会



【予選ラウンド成績】

世界から16チームが出場して開催されたこの大会は、4チームずつの4グループに分かれて総当たりリーグ戦を行い、各グループの上位3チームが2次ラウンドへ進出する組合せで行われた。日本代表はグループDに入りアルゼンチンを1点差で破ってグループ3位となり2次ラウンドへ進んだ。

日本はロシアには歯が立たなかったものの、この大会準優勝のチェコとは6点差の試合結果を残している。

グループDの結果

順位	チーム	ロシア	チェコ	日本	アルゼンチン	総得点	総失点	勝点
1	RUS		○55	○86	○77	218	174	6
2	CZE	●52		○66	○67	185	168	5
3	JPN	●63	●60		○59	182	210	4
4	ARG	●59	●53	●58		170	203	3

アルゼンチン戦

9月24日、前日ロシアに敗れた日本は、同様に1敗のアルゼンチンにはどうしても勝って2次ラウンドへ進出する手かかりをつかみたいところ。

日本は、試合の序盤から早いテンポでプレーを展開してリードするが、アルゼンチンのタフなボディコンタクトによってなかなかリードを2桁に広げられない。前半も後半も日本がリードを伸ばした際に相手が反撃に転じて猛攻撃を仕掛け、点差が縮まる試合展開となった。

日本は、第4ピリオド3分過ぎにはこの試合最大だった9点のリードを守れずに、53対52の1点差まで詰め寄られてしまった。日本は相手のボディコンタクトによる疲労のためかシュートがなかなか入らなかった。しかしアルゼンチンもイージーシュートを落としたりして、こう着状態が3分半ほど続いた。

その均衡を破ったのはアルゼンチンで、日本はゴール下シュートを決められて53対54と逆転された。しかし日本は、その後オフェンスリバウンドを何度も奪って攻撃の機会を増やし、遂には、#15石川がジャンプシュートを決めて55対54と逆転に成功する。対するアルゼンチンもシュートを決めて55対56、その直後に日本の#13大神が決めて57対56となり、めまぐるしく得点が動き出すという展開となった。

残り48秒、アルゼンチンがジャンプシュートを決めて57対58とリードする。この時点で日本のチームファウルは4回であったが、アルゼンチンは、ファウルをしていなかったため日本のオフェンスに対してシュート前にファウルをする作戦に出た。残り15秒、残り7秒とたびたび時計が止まり、とうとう残り1秒で両チームともタイムアウトを使い切った。

最後のオフェンスで日本は、スローイン#15石川の場面でディフェンス2人に囲まれた#13

大神がパスを受けるのと同時にステップし体制を崩しながらシュートするとボールがブザーとともにゴールに吸い込まれ、59 対 58 と逆転勝ちを収めた。

この残り 1 秒での逆転劇はスクリーンをしてみると見せかけて、逆に走った#13 大神の執念のシュートとそこへ絶妙のパスを送った#15 石川の功績があるが、後半リバウンドを奪いまくった#12 吉田や要所で得点を叩き出した#9 諏訪や、#8 鈴木などオンザコートとベンチが一体となって戦い、どうしても勝ちたいという全体の気持が実を結んだ結果となった。



この 1 勝によって日本は 2 次ラウンド進出をほぼ確実にした。

〔2 次ラウンド成績〕

2 次ラウンドは進出した 6 チームのリーグ戦だが、予選ラウンドで対戦したチーム同士は戦わず、予選ラウンドの結果がそのまま採用されるシステムである。したがって日本はロシア、チェコとは戦わず、スペイン、韓国、ブラジルと対戦した。スペインには大敗を喫したが、韓国とは 1 点差、ブラジルとは延長戦の末 1 ゴール差で敗れるなど今一步であり、日本はここで勝利をおさめることはできなかった。

グループ F の結果

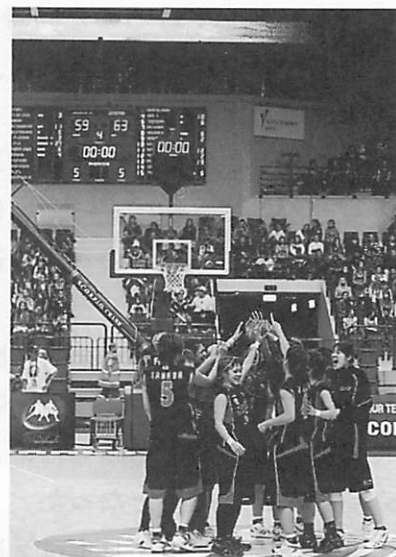
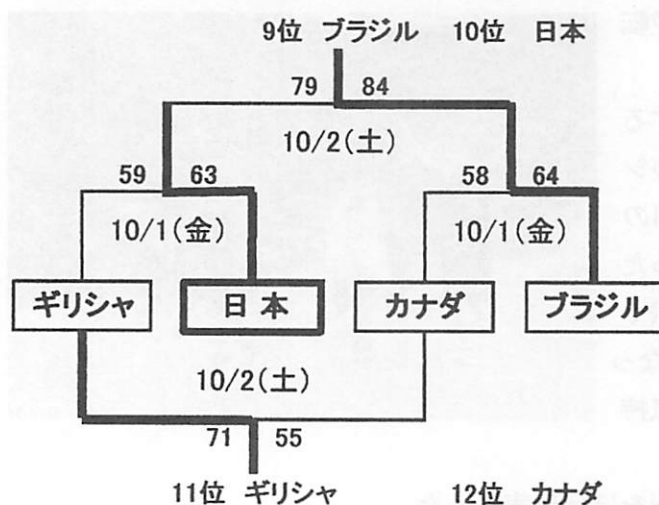
順位	チーム	ロシア	スペイン	チェコ	韓 国	ブラジル	日 本	総得点	総失点
1	RUS		○ 7 6	○ 7 7	○ 8 4	○ 6 9	○ 8 6	449	342
2	ESP	● 6 7		○ 5 5	○ 7 9	○ 7 6	○ 8 6	463	354
3	CZE	● 5 2	● 5 7		○ 9 6	○ 8 4	○ 6 6	422	380
4	KOR	● 4 8	● 6 9	● 6 5		○ 6 1	○ 6 5	376	449
5	BRA	● 5 3	● 5 7	● 7 0	● 6 0		○ 9 3	413	454
6	JPN	● 6 3	● 5 9	● 6 0	● 6 4	● 9 1		396	454

日本は、スペインに敗れた後、続く対韓国とは 64 対 65 の 1 点差、対ブラジルとは延長戦のすえ 91 対 93 と、それぞれ僅差で敗れ、目標としていたベスト 8 に残ることができなかった。

中川ヘッドコーチは、韓国戦やブラジル戦のクロスゲームについて、国際舞台における経験の差が出てしまったと語っている。比較的若手の日本代表が今後国際的な経験を積むとともに速いバスケットを更に強化すれば、先行きの希望は明るいといえるだろう。

2 次ラウンドグループ F で最下位の日本は、9 位から 1 2 位決定戦に回り、初戦のギリシャに 63 対 59 で勝利したが、9 位をかけて再びブラジルと対戦して 79 対 84 の僅差で敗れ、最終的に 10 位という成績で世界選手権を終えた。

[9-12位決定戦]



ギリシャ戦

9-12位決定戦で日本対ギリシャのゲームは10月1日の9時試合開始となり、選手たちは早朝5時に起床し、ランニングや体操などで身体を動かして覚醒させ試合会場に向かう。

9時トスアップのゲームは両チームとも身体の動きが今ひとつで、なかなか得点が伸びない。



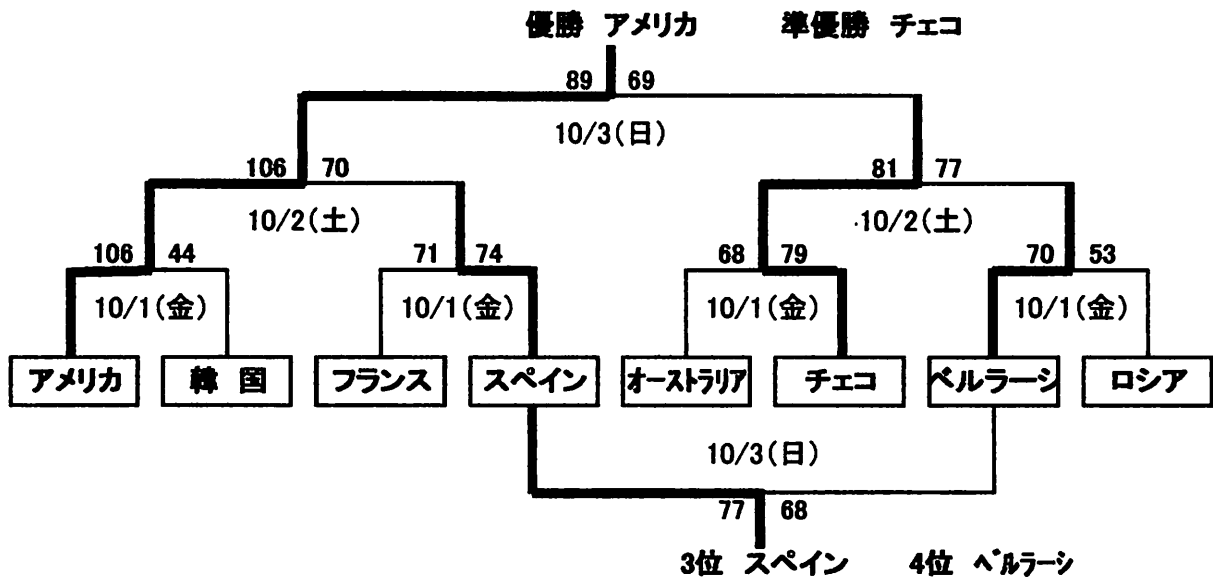
それでも日本は得点で先行してリードを奪い、前半は28対26の日本リードで終わる。ハーフタイムに入るとギリシャのキャプテンが選手全員を集めて激しく檄を飛ばす姿があった。

そのせいか後半に入るとギリシャが猛攻して一気に逆転し、日本は、アッという間に28対36とギリシャに8点をリードされた。しかし日本も疲れの見たギリシャに対し

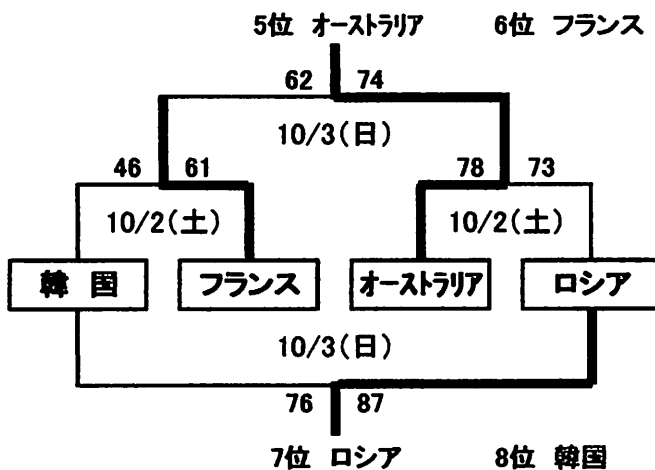
て#13 大神、#11 櫻田、#8 鈴木らが得点ラッシュを重ね、8点差をひっくり返して再び1点リードした。

第4ピリオド一進一退の展開が続く中、ギリシャのエースが4ファウルで一時ベンチに下がった残り6分から日本が奮起して残り4分に6点のリードを奪う。しかし日本も石川のファウルアウトなどがあってギリシャに追い詰められその後59対59の同点となる。日本は残り1分#8 鈴木が前線へ走ったところへ#12 吉田が絶妙なパスを送り61対59と2点リードする。その後ギリシャのシュートがはずれ日本がリバウンドを奪って#13 大神が持ち込むとギリシャがファウルし#13 大神のフリースローとなったが、これが2本とも入らずギリシャが攻撃してシュートを放つ。しかしこれも成功せず、再び#13 大神がフリースローをもらう。今度はフリースローを2本決めて日本は63対59の4点リードとなる。この時時計は残り5秒、日本がディフェンスを守り切ってタイムアップ。日本は何度も経験したクロスゲームにアルゼンチン戦について勝利した。

[決勝トーナメント&3-4位決定戦]



[5-8位決定戦]



決勝トーナメントと5-8位決定戦は上記の通りで最終順位は以下の通り。

優勝 アメリカ	第7位 ロシア	第13位 中国
準優勝 チェコ	第8位 韓国	第14位 アルゼンチン
第3位 スペイン	第9位 ブラジル	第15位 マリ
第4位 ベラルーシ	第10位 日本	第16位 セネガル
第5位 オーストラリア	第11位 ギリシャ	
第6位 フランス	第12位 カナダ	

今回の女子世界選手権大会において嬉しいニュースが入ってきた。個人表彰の部で日本の大神選手が平均得点19.1で得点王に輝き、吉田選手が平均アシスト数4.6でアシスト王に輝いたことである。

特に得点王については日本人選手として1試合平均得点ランキング1位は初めてのことであり、得点王としては第6回大会の生井選手以来の快挙である。

また、吉田選手のアシストランキング1位は日本人選手として初めてのことであり、スティールやリバウンド部門においてもベスト5に入っていることは、素晴らしいことであり、これからの日本らしいバスケットの道を切り拓いた感がある。

[各部門大会ベスト5]

<得点(1試合平均)>

Rk	Player name (IOC)	GP	Avg
1	大神 雄子 (日本)	8	19.1
2	Sancho LYTTLE (ESP)	8	18.4
3	Evanthia MALTSI (GRE)	8	17.9
4	Amaya VALDEMORO (ESP)	9	17.7
5	Erika DE SOUZA MACHADO (BRA)	8	16.6

<得点(トータル)>

Rk	Player name (IOC)	GP	Total
1	Amaya VALDEMORO (ESP)	9	159
2	大神 雄子 (日本)	8	153
3	Eva VITECKOVA (CZE)	9	148
4	Sancho LYTTLE (ESP)	8	147
5	Evanthia MALTSI (GRE)	8	143

<3Pシュート成功数>

Rk	GP	GP	Total	Avg
1	Yeon Ha BEON (KOR)	9	33	3.7
2	Evanthia MALTSI (GRE)	8	26	3.2
3	Eva VITECKOVA (CZE)	9	22	2.4
4	Amaya VALDEMORO (ESP)	9	21	2.3
5	三谷 藍 (日本)	7	15	2.1
5	Styliani KALTSIDOU (GRE)	8	15	1.9

<アシスト>

Rk	Player name (IOC)	GP	Total	Avg
1	吉田 亜沙美 (日本)	8	37	4.6
2	Hana HORAKOVA (CZE)	9	35	3.9
3	Celine DUMERC (FRA)	9	34	3.8
4	大神 雄子 (日本)	8	30	3.8
5	Adriana PINTO (BRA)	8	27	3.4

<リバウンド>

Rk	Player name (IOC)	GP	Off	Def	Total	Avg
1	Erika DE SOUZA MACHADO (BRA)	8	36	60	96	12
2	Sancho LYTTLE (ESP)	8	37	55	92	11.5
3	Magnouma COULIBALY (MLI)	5	16	36	52	10.4
4	Yelena LEUCHANKA (BLR)	9	21	58	79	8.8
5	吉田 亜沙美 (日本)	8	14	51	65	8.1

<スティール>

Rk	Player name (IOC)	GP	Total	Avg
1	Hana HORAKOVA (CZE)	9	26	2.9
2	Angel MCCOUGHTRY (USA)	9	24	2.7
3	Evanthia MALTSI (GRE)	8	19	2.4
4	吉田 亜沙美 (日本)	8	17	2.1
5	Teresa GABRIELE (CAN)	8	15	1.9

*なお文中の写真は全てJBA提供のものです。



チェコ女子世界選手権応援旅行記

中瀬 達雄

1. きっかけとプランの概要

(1) 仙台→ソウル→マドリッド→チェコ（ブルノ）

始まりは、アテネオリンピック予選の仙台でのアジア選手権だった。予選リーグで負けた準決勝の韓国戦で、初先発・薮内（JAL）の大活躍もあって延長戦勝利とオリンピックの切符を確保したときの大興奮が忘れられない思い出となった。

次は、北京オリンピック予選である。初の海外応援だったソウルでのアジア予選、チームは今一つ力が出ず、二軍出場の中国にも及ばず切符に手が届かなかった。こうなればオリンピック最終予選に行かなければと、マドリッド（スペイン）まで延べ15時間以上も狭いエコノミー座席で頑張って出かけたが、ご存じのとおりもう一步の結果であった。

昨年の世界選手権アジア予選では予定の台北が急に開催を返上、時期も9月にずれたうえにインド開催となったため応援参加を断念せざるを得なかった。幸いアジア代表3チームに入ったので、今回チェコでの世界選手権応援となったわけである。

(2) 格安航空券での個人旅行

参加者はJAL RABBITSの応援関係者中心なので、チームに既述の薮内、ソウル・マドリッドの矢代・岩村、今回の高橋がいるのも出かける要因の一つである。また、今回の代表チームには、中川ヘッドコーチはじめ、古海・星沢・梅畚コーチと顔馴染みがいることも影響している。

今回の参加はJAL関係中心の6人といえども、完全な個人手配旅行である。プラハまでの格安航空券を探し、開催地ブルノまでの移動に便利なホテルを探して手配した。いずれもインターネットを使って、ホテルやバスを探すことから、支払い、クーポン取得まで自宅で全部手配できた。

(3) 予選リーグ応援と世界遺産観光

4チームでの予選リーグの戦績によっては、次の順位戦の場所が変わる可能性があり、旅程にも限度があるので応援は予選3ゲームに限った。一部の人は直帰したが、残りは世界遺産の街プラハに2泊滞在した。

この時期の航空券18万円、宿泊・移動・食費（ファーストフード級）を含め23万円以下の旅費で済んだ。数ヶ月前に手配すれば更に安くなる筈である。

2. 日本チームの戦いぶり

チームの試合ぶりは日本でのテレビ中継を観戦された方も多いので、特にプレーについての深い論評は避けておく。

(1) ロシア戦

これは確実に実力の差といえるゲームで、むしろゲーム内容から見れば前半の5点差は大善戦といえよう。ただ、大きなロシアがゴール下の混戦からノーマーク選手にタイムリーなパスを出すのに対して、小さな日本選手が無理なインサイドプレーでターンオーバーやブロックショットを連発していたのが気になった。

(2) アルゼンチン戦

ゲームは日本が終始押し気味で第3ピリオドは6点のリードで終了したが、残り3分で逆転され1分を切って1点を追う。アルゼンチンのファウル作戦に手こずり、最後の1秒のスローインからの大神の逆転シュートで1勝をもぎ取った。

(3) チェコ戦

このゲームも結果的に相手が準優勝チームになったことを考えると大善戦だったといえる。「届きそうでどうしても届かない」感じで時間が流れ、最後の1分も4点差を詰める連続3ポイントが決まらず6点差の敗戦で終わった。

(4) その後のゲーム

以降は、プラハのホテルでのテレビ観戦である。

準決勝リーグ第1戦のスペインは、予選リーグでの観戦時から予想したとおりの差があった。ブラジル戦は何としても惜しいゲームを落とした。第3ピリオド半ばで12点リードしていたにもかかわらず、最後の1分3点のリードが守れなかった。相手の2秒での3ポイントで延長になったのだが、ファウル作戦という手はなかったのだろうか。

韓国戦の1点差も大変残念である。大会中のゲームで、日本は点差2以内のゲームが1勝2敗に対して韓国は3勝0敗であった。試合に強いということだろうか。

3. 日本チーム応援の状況

(1) まったく寂しい日本の応援体制

ソウルのときは、時期を合わせた韓国合宿の日本リーグチーム、代表選手の家族、さらに個人参加のファンも多く、観覧席に日本人をたくさん見ることができた。マドリードの最終予選も選手家族のほか現地大使はじめ日本企業関係者などで応援の声は大きかった。

ところが今回は、事前に日本協会やWJBLに問い合わせても殆ど反応がなく、選手家族も新顔が多いためか参加の声が聞こえなかった。「まさか6人だけはないだろうが・・・」の思いで105円の「日の丸小旗」6本をカバンに詰めて現地入りした。

(2) 入場料は高いが場内はいい加減

会場の形状が変則的で、ベンチの向う正面と片側エンドにしか観覧席がなく、全席指定しかも正面一階席は4,500円という高額だった。(ちなみにチェコは500ml缶ビール40円という低物価社会なのに・・・) 第3日のチェコ戦は地元かつ夜の試合ということで、正面第3列の4,500円の席を8月前半にインターネットで購入しておいた。

第1日当日は1階エンド席(2,000円)を買って入場したが、一人10円という団体券を持った子供たちが売れていない4,500円にドッと流れ込む様に啞然としてしまっ

た。

(3) 応援冥利のアルゼンチン戦逆転勝利

第2日は前日の学習を生かして早めに会場入りし、2,000円席へ荷物を置いてスルスと隣の4,500円席前列を陣取る。ダメ元の構えである。この日はデンソーのチェコ会社社員数十人が大きな日章旗とスティックバルーンを持って駆けつけてくれた。デンソー表示のバルーンはコマーシャル制限ゆえ途中から使用不可となってしまったが、



写真提供 JBA

接戦の連続と最終大逆転に応援席は大いに盛り上がった。観客席に陣取った佐室日本協会副会長も立ち上がって大声をあげ名指しで選手にゲキを飛ばしていた。

(4) 地元2,000人対6人の応援

ホームチーム相手かつ初の夜の試合とあって、万が一予約席に座れないような事態を防ぐべく前試合のハーフタイムに会場に到着した。さすが前2日のようなことはなく私たちの第3列6席はポカリと空いていた。佐室副会長もデンソー日本人従業員も正面に席をとることはできなかった。

サッカー場で聞く笛での応援が激しく肉声での応援は殆ど通用せず、日の丸小旗を大きく振って存在をアピールするのが精一杯であった。相手チェコの方は、タイムアウトになるとマイクを持った大会関係者がコート中央に出てきて大観衆を煽りまくる。コートを半周してのスタンディングオベーションを何回もやるし、最後の3分間は全観衆を立ち上がらせての応援となった。これがホームチーム応援かと思い知らされた。

試合終了後、選手全員が私たち6人の前に来て頭を深く下げてくれたことで、今回の旅行は十分に報われた思いであった。帰国後、「テレビで見ましたよ」という言葉を何回も聞いてこれでも満足できた。

4. 応援旅行もう一つの楽しみ方

応援に行ったからと言って代表選手やスタッフと話をする機会があるわけではない。ただ、1日2時間弱の応援だけがバスケットタイムだから、旅の楽しさは他の時間をどう使うかにかかっている。

(1) 世界遺産の街・プラハとブルノ

どちらの街にも14～5世紀からの大聖堂やお城がいくつもある。特にプラハは町中が世界文化遺産というから本当は1日や2日で見切れるものではない。プラハ城・カレル橋を中心にサワリだけを見て歩いたが、明治の建築で大騒ぎする日本と比べると、本当に石の文化と木の文化の違いを感じさせられた。

(2) 人・人・人のウィーン日帰り観光

試合地ブルノからはプラハより隣国オーストリアのウィーンのほうが近い。試合開始が20時の第3日、所要2時間の往復に欧州国際列車を使って滞在5時間のウィーン観光へ出かけた。駐車場に大型バス50台が並ぶほどの人出と2時間でも歩ききれない大庭園を持つシェーンブルン宮殿、これまた各国観光客で賑わうウィーン中心街のシュテファン寺院を見て帰る。

(3) うまいビールと安い料理を楽しむ

500ml ビールがスーパーで35円から、居酒屋でジョッキ250円の安さ、しかも麦芽含有率がぐんと高く本当にうまい。つまみにはチーズ、ハムはもちろんだが、1.3kgもある骨付き豚のすね肉の1,500円は4人で食らいついて十分だった。土産用の板チョコもスーパーなら1枚35円からという安さだった。

5. これからの代表チーム応援

(1) これでいいのか代表応援

ソウルやマドリッドのときは、応援の日本人はそこそこいたが音頭取りがいなかった。同行のJAL 応援スタッフが遠慮しながら音頭を取った形で、マドリッドでは当地での学会参加の大学教授などもいて結構盛り上がった。

応援参加 JAL 社員の元上司であるマドリッド支店長からスペイン大使館に働きかけて大使の2日間観戦などが実現した。昨年のインドでの女子アジア選手権では、佐室副会長がご自身の会社の関係を動かして現地応援体制を整えられたと聞く。これ以外には応援が見られず、日本協会などには代表チームの応援に関心がある様子が見られなかった。

(2) 同じ FAR EAST でも韓国は

たしかにチェコは FAR ではあるが、隣から参加した韓国チーム応援は、大きな横断幕を準備し、ハッキリしたリーダーが音頭をとり、まとまった応援をしていた。どんな組織がどんな動機や手順でこんな応援ができているのか分からないが、日本より上位となったのは、少なくとも日本より多くの元気をチームや選手に与えたのではなかろうか。

(3) まずは、誰かが音頭取り

たしかに海外の大会に組織だった応援団をきちんと送り込むということは大変なことだと思う。海外応援に関心のある人を募る、行くつもりの人のネットワークをつくるなど、いろいろな段階での音頭取りが必要だ。そうすれば、行く人も多くなるだろうし、行った人も気持ち良く応援できるだろう。そしてその結果、チームや選手も大いに元気が出るだろう。

(4) 来年8月の女子ロンドン五輪予選

来年8月には長崎県大村市でロンドンオリンピック予選の女子アジア選手権が開催される。観戦者が多いのは当たり前だろうが、組織だった効果的な応援ができるかどうかはわからない。きちんとした応援リーダーがいないと自然に盛り上がらないのが日本人ではないかと危惧する。コートの中真ん中で日の丸を振ってスタンディングオベーション

ンをやったチェコのように、徹底したホームタウン応援をやってみたいものである。

(5) コート外盛り上げもバスケット振興策の大きな柱

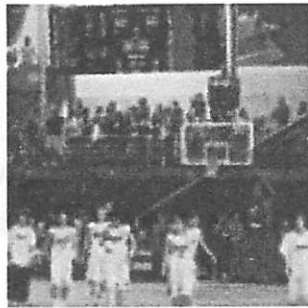
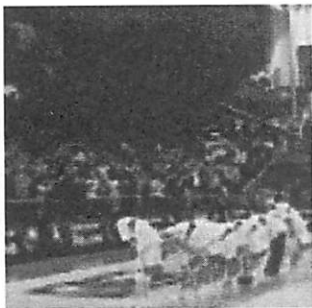
観客動員数だけでなく、いろいろな局面でバスケットを盛り上げることは振興策の重要な要素であり、日本協会の重要な責務ではないでしょうか。

6. 海外応援旅行のすすめ

バスケットを心から応援したい、ついでにちょっとした観光にも出かけたい。こんな人に応援旅行はうってつけ。ただ、オリンピックやアジア大会のような総合競技大会では交通・宿泊が難しく高価になってしまう。応援旅行はバスケットだけの大会が狙い目。人数も二人だけでは応援の効果がいまいちで、10人以上の多人数になると旅行会社手配になり高価になりがち。インターネットをある程度使えて、数人の旅行なら、行程も小回りが利き、適当費用で楽しめそうである。

(振興会会員・元 JAL RABBITS 監督・部長)

※文中の大会が女子だけなのは、筆者が50年間、女子専科だったためなので悪しからず。



写真提供 J B A

どんな道も、
自分の道に変えられる。



sound mind
sound body

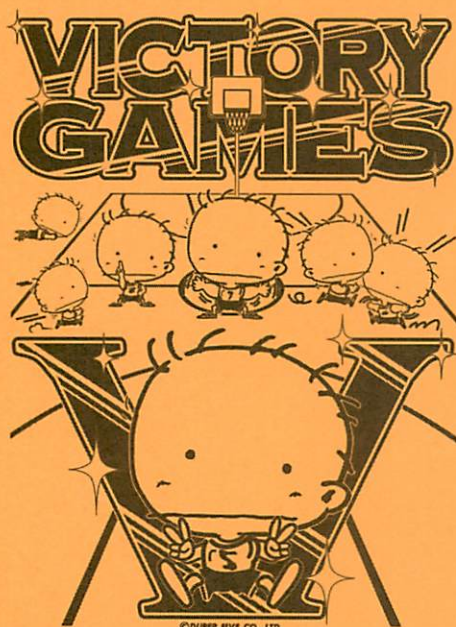
 **asics**



DUPER®



表現の自由人。



DUPER®

URL : <http://www.duper.co.jp>

デューパーファイブ株式会社
〒130-0023 東京都墨田区立川3-35
TEL . (03)3632-7045 (代表)
FAX . (03)3632-8327

E-mail: info@duper.co.jp